

千年の森便り No.105

2012.06.20

ちば千年の森をつくる会

<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~toyofusajima/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

6月16日(土) 雨 伊藤、鶴沢、福島、松田、真鍋、村野の6名参加。

本格的な梅雨入り、水辺清掃など一部の作業を中止して、雨の豊英湖対岸で花盛りのケイワタバコなど観察し、昼前から島に渡り、ニホンジカ調査と植物調査、午後県民の森で遅い昼食の後、食害調査方法等について打合せを行いました。

○ニホンジカ調査

対岸の自然観察のあと、ニホンジカの個体数調査を行いました。今回は参加人数が6名のため、通常は7コースのところを6コースに変更し、時間は11:50~12:30で実施しました。シカの目撃はなし。その他の痕跡として、禁断の岬北岸で新しいフンを確認しました。(福島)

○植物調査

小雨の中、大急ぎで植物の観察・撮影を行いました。福島さんは単身禁断の岬崖を下りましたが、ケイワタバコは開花前でした。巨木林のコナラ高木にイワガラミ(千葉県要保護生物:C)がよじ登り、白い花を咲かせていました。望遠レンズなしで苦心して撮影した下の画像、不鮮明ながらカエデの枝の間に白い花、周りに葉が見えます。ウメガサソウは花を終えていました。5月に金網で保護したシュスランは何故か3株とも消失、原因は不明。入口近くの保護金網内のツチアケビは、4株中2株開花、2株は消失し痕跡もありません。(真鍋)



禁断の岬のケイワタバコ 福島



コナラの高木によじ登るイワガラミ 松田



目と口を大きく開けイワガラミの観察・撮影



島対岸のケイワタバコ 福島



見事なケイワタバコに息を呑む



トンネル天井のキクガシラコウモリ 福島

○豊英湖対岸の自然観察

崖に密生するケイワタバコは見事に花を咲かせていました。5月の観察会時よりも緑がもっと濃くなり、雨のなかホトトギス、オオルリ、シジュウカラ、ヤブサメの囀りが賑やかでした。最初のトンネルと奥の長いトンネルには人間の騒音に驚いて逃げまどうコウモリがいました。暗闇の中で撮影した画像からキクガシラコウモリ(千葉県要保護生物:C)と思われます。白っぽくて大きく目のように見えるのは耳で、顔は鼻のように見える部分です。

登山靴の松田さんの足にはヒルの吸血跡がありました。長靴の他の5人は無事でした。福島さんの上着には小さいヒルがシャクトリムシのような運動をしていました。県民の森所長のお話では、あの近辺はヒルの多い地域とことです。豊英島でヒルを見たか被害にあった方は、速やかにご一報ください。(福島・真鍋)

6月13日(水)曇 坂本文雄さんはセンサーカメラのメモリー交換のため入林、報告いただきました。

先月からマダケ林に移した1台のセンサーカメラに5月26日、6月2日、3日、8日の4回に亘り、シカの画像がありました。タケノコの季節にはシカが頻繁に来ていることが再確認出来ました。6月2日の夜から3日にかけて島内に留まっていたと思われます。マダケ、ホテイチクともに保護ネットの外側のタケノコはほぼ完ぺきに食い尽くされていました。

禁断岬近くのヒメコマツ植栽地に、すごく元気なイチヤクソウがありました。高木の伐採により、日照が十分に得られたので、このような開花株になったものと思いますが、樹木の生長や背の高い草が茂るまでの一時的な現象と見られます。

島へ通じる吊橋の右側の眼下にヤマボウシの木があって、昨年この時期には枝一面に咲いた白い花が見事で、写真集のページを飾っています。今年はその反動なのか全く咲いていません。豊英島に限らず、県内各地のヤマボウシの花付きは極端に悪いようです。春一番のコブシも同様でした。手入れをしない自生の樹木にはこのような当たり年と外れの年があるのは普通ですが、記録的な少なさと思うので、記録に残したいと思います。

トビの古巣は相変わらず、空き家状態で、今年の繁殖は期待できません。センサーカメラに珍しく、飛んでいるシジュウカラが大写しになりました。カメラの防水ボックスを営巣場所に使えないか偵察に来て、ホバリングしているようにも見えます。(坂本文雄)



マダケ林にニホンジカ 6/3



センサーカメラにシジュウカラ 4/26

豊英島を訪ねて

(寄稿) 八千代市 小川 洋子

豊英島は房総半島の中ほど清和県民の森の豊英湖にある島で、「ちば千年の森をつくる会」の皆さんが「生物多様性保全を目指す超長期の森づくり」を実践していらっしゃるフィールドだそうだ。この島に通ずるたった一本のつり橋は施錠されているので、普段は入ることができない。その島を訪問するチャンスがおとすれた。5月20日(日)が一般開放日というので、千年の森のメンバーの方の車に同乗させていただいて出かけた。

清和県民の森の管理棟近くの駐車場に集合して豊英島目指して出発。ただしこの日は真っ直ぐ目的地に向かわず、県民の森や里山を巡りながらのコースを歩いた。田植えが終わった田圃近くの道にはコケリンドウがたくさん咲いていて思わず感嘆の声が出た。溪流沿いの道にはフサザクラがたくさんあり、若い翼果が目の高さで観察できた。道端の斜面に咲くタツナミソウの色の鮮やかなこと！日本一のミツバツツジの林を抜け大滝を見下ろしたりしながら、ハイライトの旧道へ。新しい道が開通したため利用されなくなった道は豊かな自然の宝庫になっていた。棘だらけの身をくねらせながら他の木に巻きつき黄色い花をいっぱいにつけたジャケツイバラ、花嫁のベールのような白い花をまとった枝を四方に伸ばしたヤブデマリ、崖には花が楽しみなケイワタバコの葉が茂っていた。ま



コケリンドウ 12/05/20 栗山
千葉県一般保護生物:D

た人が通らなくなったトンネルはコウモリがちゃっかり住処にしていた。天井に張り付いていたコウモリは人の気配を察して、懐中電灯を向ける間もなく飛びたってしまう。顔をしっかりと見たかったが、思いがかなわず残念。

ようやく島の入り口のつり橋に着く。橋を渡って道標に案内されて千年広場へ。そこは林を払った明るい広場で、竹を利用したテーブルとベンチがしつらえてあるとても気持ちの良い空間だ。時刻はちょうどお昼、三々五々ベンチに座りお弁当をいただく。足元にはモミなど樹木の芽生えがみられ、今後の森の豊かさを物語るようだ。そこで食べるお昼は、とてもおいしく感じられた。

昼食後は、グループに分かれての作業タイム。カモ技術もない私は植物の調査に同行させていただく。せっかく伸びてきたツチアケビの新芽などが鹿の食害にあって痛々しい姿になってしまった。橋は封鎖されているのに何故？鹿はなんと湖を渡って来るという。特に今の季節は好物のタケノコを食べに来るそうだ。新鮮なタケノコに惹かれて来るなんて鹿もグルメ、なんて感心している場合ではない。午前中も鹿の食害にあい丸裸になったアオキをたくさん見たのだった。鹿から貴重な植物を守るために金網で囲っていたが、大変な作業だと思う。その忙しいさなかに『豊英島の自然』という本まで出版してしまうそのバイタリティーには感心するばかり。千年後も今と変わらず、更に緑豊かな自然を目指して活動なさっているメンバーの皆様に頭が下がる思いだ。

お忙しい中一般観察会を開いてくださり、豊英島をはじめとする豊かな房総の自然を満喫させてくださった「ちば千年の森をつくる会」の皆さまありがとうございました。

お知らせ

○7月の定例活動日：7月16日（月 海の日）

光環境調査、水辺清掃、新マダケナンバリング、食害調査（保護柵内外の植生調査）、植物調査、野鳥調査など。9時30分木のふるさと館駐車場集合。6月16日雨のため積み残した作業がいっぱいです。多くの会員の参加が期待されます。

○夏のキノコと植物の観察会：8月5日（日）

吹春講師をお招きし、夏のキノコとクロムヨウランなどキノコと共生する植物の観察会を行います。添付の「夏のキノコと植物の観察会」参照。9時30分木のふるさと館駐車場集合。公開行事のため一般参加者も募集し、定員40名に達し次第、募集を打ち切ります。会員の参加希望者は伊藤事務局長宛 **7月21日までに** 申込み下さい。

○「シカとカモシカ」；県中央博物館24年度企画展、期間は7月7日～9月17日です。「ニホンジカと共生する森づくり」に関心のある方には、興味深い有益な展示です。問合せ TEL043-265-3111

○全国育樹祭に参加しませんか

24年11月11日（日）に静岡県袋井市で全国育樹祭が開催されます。皇族（例年は皇太子殿下）が参加される森の手入れをメインにした行事ですが、初めての試みとして全国の市民団体に直接の参加募集をしています。交通費、宿泊費は個人負担、締め切りは7月6日です。お問い合わせは事務局伊藤まで。

○新日鉄君津社内報

4月活動日に豊英島にお出でになった新日鉄の皆さんの訪問記が、君津製鉄所の社内報に掲載されました。「鉄づくりにとって工業用水は不可欠です。水源地である豊英ダムは・・・」とはじまり、豊英島の歴史や当会の活動内容にかなりのスペースを割いて丁寧に紹介していただきました。文章の最後は、「豊英島の自然に触れてみたい方は是非千年の森をつくる会に入会を」とむすばれています。新日鉄の皆さん、参加をお待ちしています。